



調査レポート

2024年 障害のある方の転職・就職に 関する意識調査

2024年9月25日
パーソルダイバーズ株式会社 障害者雇用調査・研究室

2023年に改正された「障害者雇用対策基本方針」において、いわゆる「雇用の質向上」について、事業主の債務が明確化された。

そこには、「障害特性や希望に応じて能力を有効に発揮できる就職を実現することや、雇用後においてもその能力等を発揮し活躍できるようにすることなど、雇用の質の向上に取り組んでいくことが重要」としている。

これらを背景に、障害者を雇用する企業側としても、雇用への意識の変化が見て取れる。

例えば、2024年7月に弊社にて実施した「障害者雇用方針の変化と展望」調査の結果では、企業の障害者雇用の目的が、“雇用の量”から“雇用の質”へと雇用の目的が変わりつつあることが明らかとなっている。

そこで本調査では、法定雇用率の上昇や雇用の量から質へ、といった社会情勢の変化や雇用する企業側の意識の変化を踏まえ、障害者個人の、はたらくことへの意識がどのように変化しているのかを明らかにする。

特に個人向けの意識調査として、2022年に、「障害者の就職・転職に関する調査」を当社は実施している。障害者枠ではたらく方が、モチベーションを高めながら安心して長期安定就業を支援し、企業の戦力にするため必要なこと”について調査しているが、この2022年からの意識の変化についても注目する。

調査結果概要・サマリー

調査概要

調査名	: 2024年 障害のある方の転職・就職に関する意識調査	調査期間	: 2024年8月19日～8月23日
調査方法	: 自社会員を用いた、インターネットによるアンケート調査	回答数	: 359名
調査対象	: dodaチャレンジに登録する、全国の障害のある就業者	実施主体	: パーソルダイバーズ株式会社

就業状況	回答数	比率
現職	325	91%
離職中	33	9%
就業経験なし	1	0%

雇用枠	回答数	比率
障害者雇用枠	247	76%
一般雇用枠	78	24%

※「現職」の回答者のみ (N=325)

障害区分	回答数	比率
身体障害	300	84%
精神障害	31	9%
発達障害	28	8%

居住エリア	回答数	比率	居住エリア	回答数	比率
北海道・東北	24	7%	関西	62	17%
関東（一都三県除く）	38	11%	四国	0	0%
首都圏（一都三県）	156	43%	中国	5	1%
中部	40	11%	九州・沖縄	31	9%
北陸	3	1%			

年代	回答数	比率
～20代	23	6%
30代	88	25%
40代	108	30%
50代	139	39%
60代	1	0%

引用について:本調査を引用いただく場合は、出所を明示してください。

記載例:パーソルダイバーズ株式会社「2024年 障害のある方の転職・就職に関する意識調査」

※本資料では、ユニバーサルデザインの考え方に基いたフォント・配色を使用しています。

調査結果サマリー

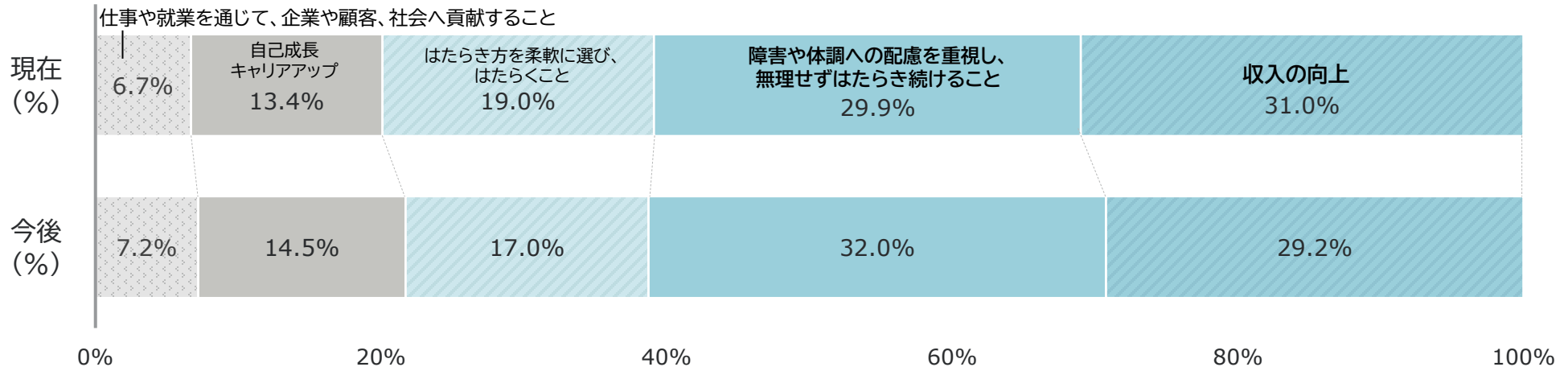
- 本調査においては、dodaチャレンジ自社会員に対して、はたらく際に重視する価値観について調査した。結果、今現在、及び今後において、“はたらくことに対して特に重視すること”としては、「収入の向上」(31%)及び「障害や体調への配慮を重視し、無理せずはたらき続けること」の両者が高い結果だった。
2020年／2021年に当社が実施の調査においても「収入、給与」、「継続してはたらけること」が重視されており、前回の調査時点から、障害者の就業への意識の変化は見られなかった。
- 就職・転職活動を行う際の不安や悩み、課題においては、「給与・待遇面など自分の条件と合致するか」(58.5%)及び「自分が希望する(特性や適性に合った)求人数が少なかった」(43.7%)の両者が高い。
- 就職・転職支援サービスに期待することや望むこととしても、「自分の希望や条件、特性に合った仕事を紹介してくれる」(78.8%)、「転職／就職先を選ぶ際の情報量と選択肢が多い」(58.2%)であり、自身の希望する条件に合致した求人を第一に求めていることが分かった。

調査結果紹介

調査結果紹介 | 今現在／今後の重視するはたらく価値観

障害者が今現在、及び今後において、“はたらくことに対して特に重視すること”としては、「収入の向上」(31%)及び「障害や体調への配慮を重視し、無理せずはたらき続けること」(29.9%)が上位に並んだ。
 今後大事にしたい、はたらく上で最も重視したいものとしては、「障害や体調への配慮を重視し、無理せずはたらき続けること」(32%)が最も高く、「収入の向上」(29.2%)と続くが、上位2つは今現在大事にしたいものと同様である。

障害者の意識:「現在」と「今後」のはたらく際に重視する価値観 (N=359)



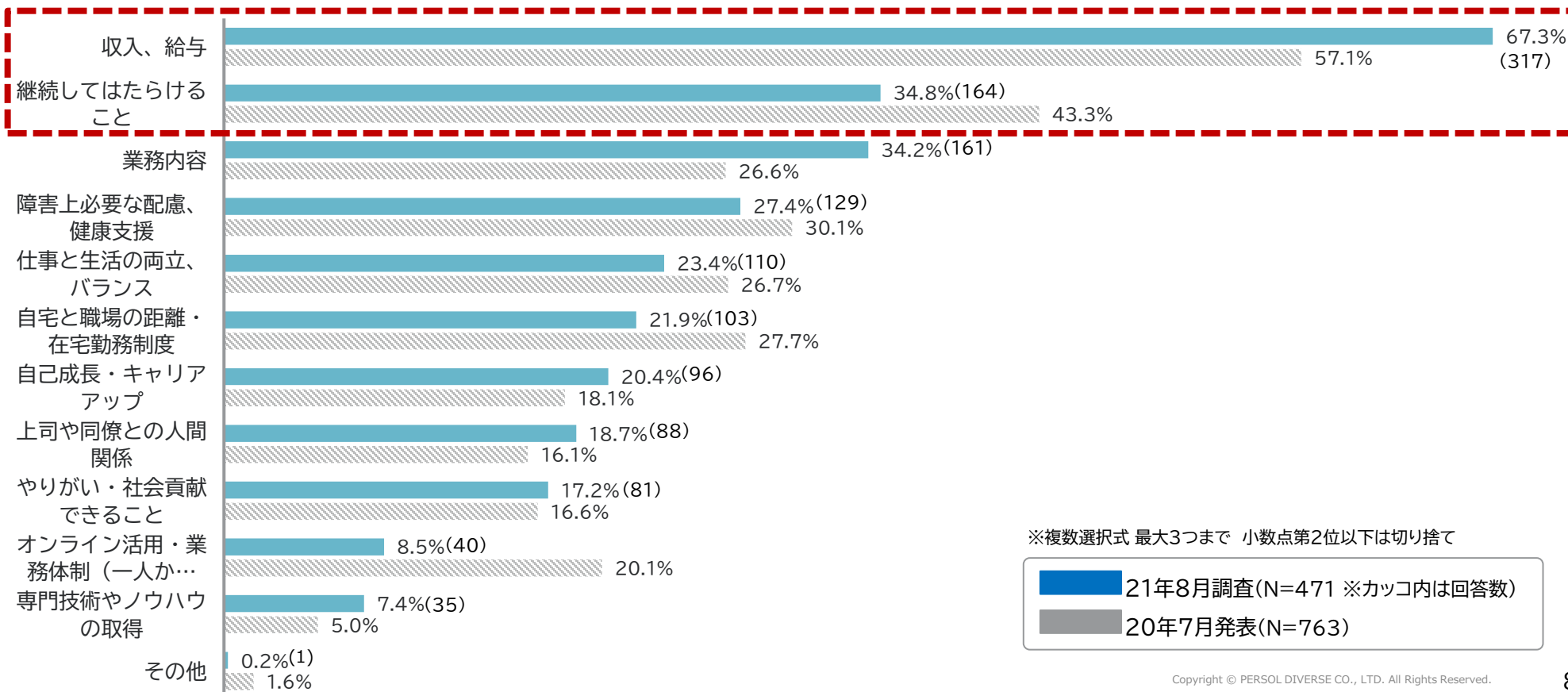
【フリーコメント 抜粋】

- これまで一般雇用枠で何社も経験してきたのちに、障害者雇用枠で働くようになって痛感したが、仕事を選ぶうえで働きやすいこと、働き続けることが一番重要だと思う。(20代、発達障害)
- 自身は一般就労のため、周囲および会社に打ち明けられていない。そのため、自身の特性にとって苦手なことを振られて、大きなストレスを抱えたことがあった。そのため、自身の特性に応じて配慮してもらえる環境が望ましいと感じた。(30代、発達障害)
- 仕事に生きがいを求めることは、とてもハードルが高いと悟ったので、無理せず、長く働き続けることが重要だと気付いたから。(50代、身体障害)

参考 | 2020年及び2021年の「障害者が“はたらく”に重視すること」

弊社実施の2020年及び2022年の障害者への就業意識調査においても、今回の調査と同様、障害者が“はたらく”に重視することは「収入、給与」が最も高く、「継続してはたらけること」と続く。
 今回実施の調査においても「収入の向上」と「無理せずはたらき続けること」が上位に選ばれており、2020年から一貫してこの両者を重視していることが分かる。

■ 障害者が“はたらく”に重視すること(20年及び21年実施調査)

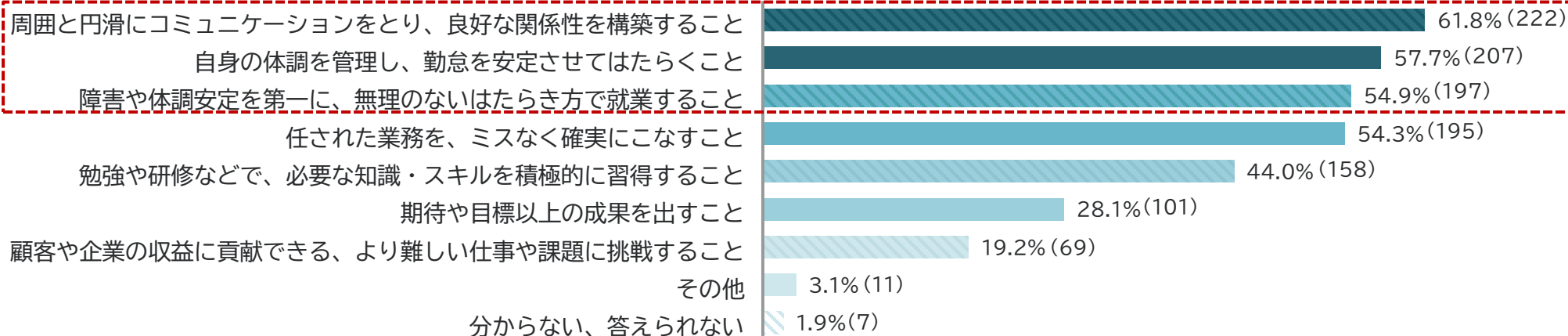


今後のはたらくことへの価値観 | はたらく上で最も大切だと思う行動

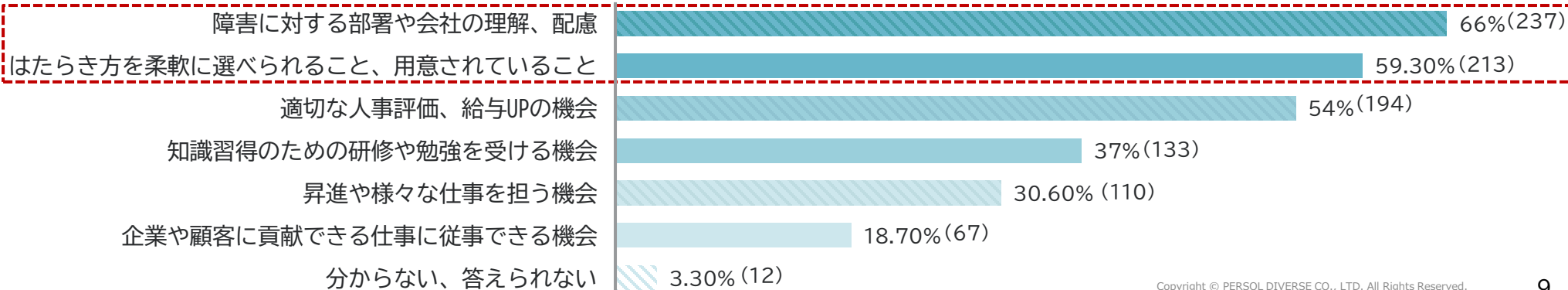


「今後大事にしたい、はたらく上で大事にしたいこと」を実現するために大切だと思う行動では、上位3つが「周囲との良好な関係性の構築」、「勤怠の安定」、「障害や体調安定を第一に無理のないはたらき方で就業」など、就労安定要素の項目が選ばれた。下位に選ばれたものでは、「より難しい仕事や課題に挑戦すること」や「期待や目標以上の成果を出すこと」、「知識・スキルを積極的に習得すること」など、業務・スキル面の項目が選ばれた。

重視するはたらく価値観を実現するために、最も大切だと思う行動 (N=359)

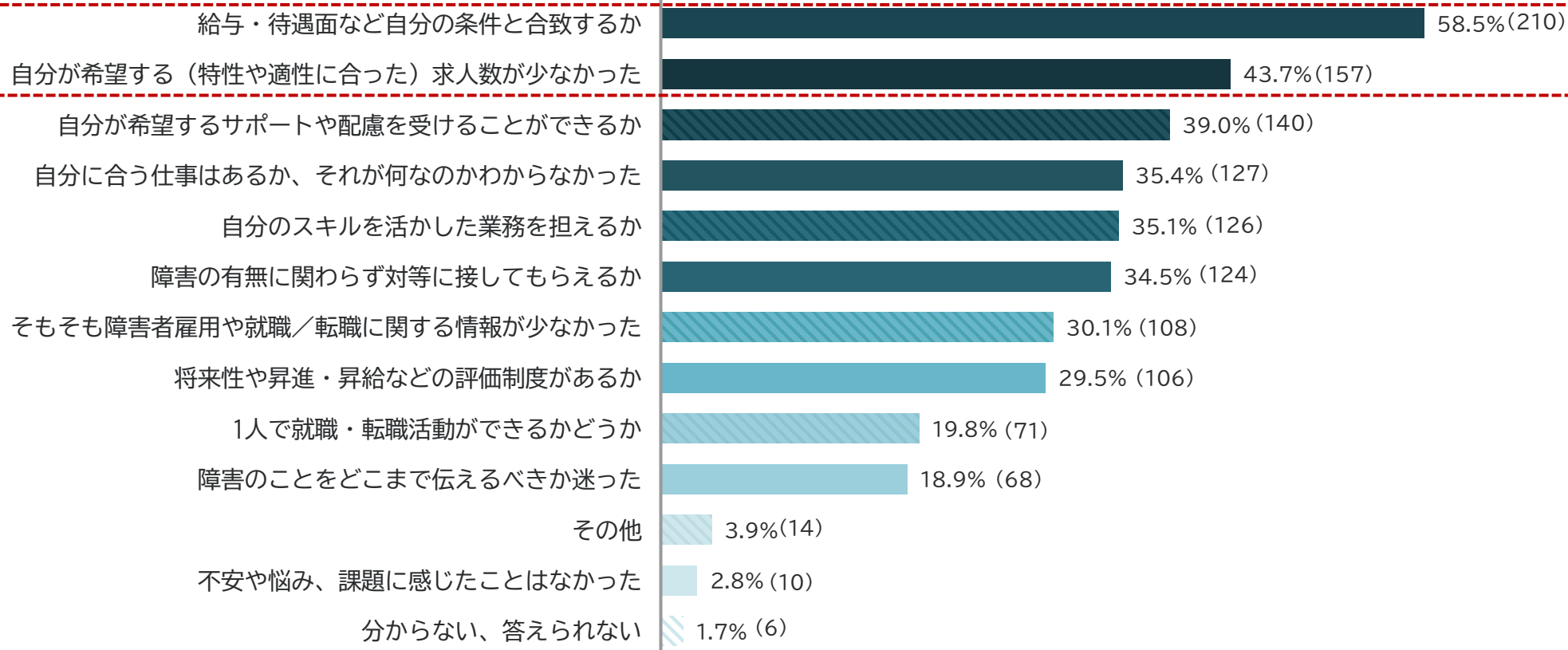


重視するはたらく価値観を実現するために、企業に求めたいこと (N=359)



就職・転職活動において感じる不安や悩み、課題においては「給与・待遇面など自分の条件に合致するか」(58.5%)が最も高かった。はたらく上で大事にしたいこととしても、「収入の向上」及び「障害や体調に配慮して、はたらき続けること」であり、この両者を重視する価値観が反映されていることが分かる。

■ 就職・転職活動において感じる(過去の就職活動で感じた)不安や悩み、課題 (N=359)

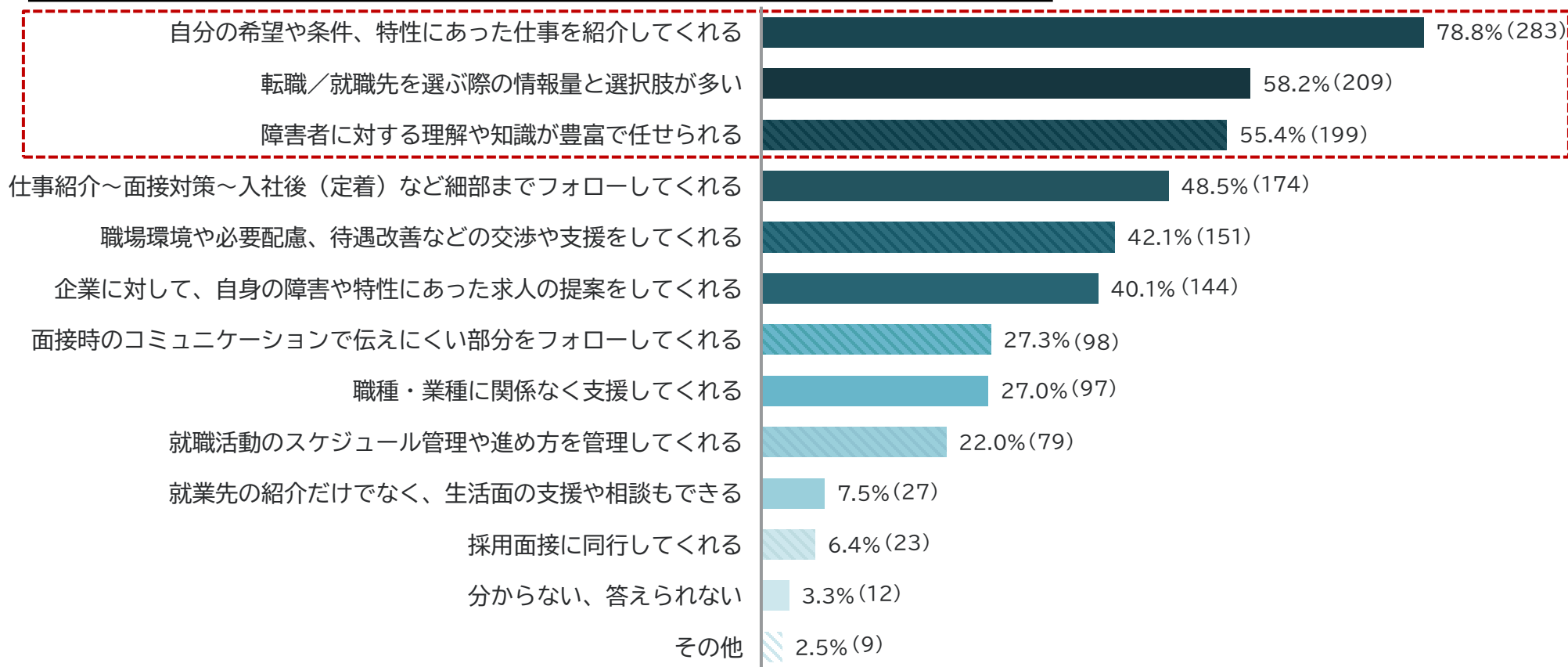


転職の意向 | 就職・転職支援サービスに期待することや望むこと



就職・転職活動を行う際に、就職・転職支援サービスに対して期待することや望むこととしては、「自分の希望や条件、特性に合った仕事を紹介してくれる」が最も多く、「転職／就職先を選ぶ際の情報量と選択肢が多い」、「障害者に対する理解や知識が豊富で任せられる」が続いた。
一方で「生活面の支援や相談」であったり、「就職活動のスケジュール管理」といった項目が低く、幅広い選択肢の中、主体的に就職・転職活動を進めたい意向が伺える。

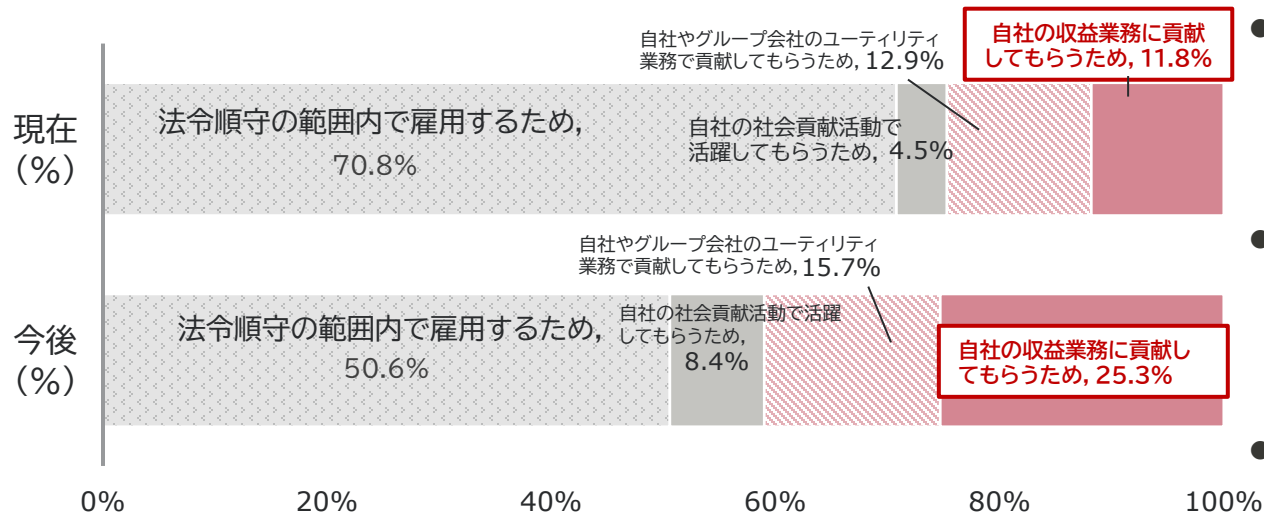
■ 就職・転職活動を行う際、支援サービスに期待することや望むこと (N=359)



参考 | 「障害者雇用方針の変化と展望」調査結果の紹介



■ **【企業の意識】**：障害者の採用活動をする際に【現在、最も重視する方針】と【今後、最も重視したい方針】 N=178、企業の人事担当者

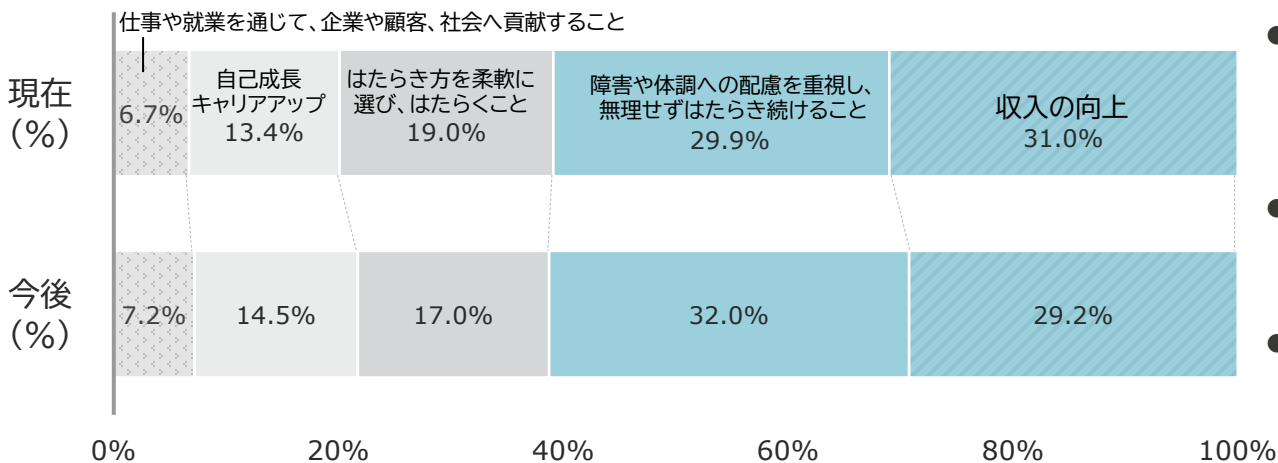


- 参考として、企業側の障害者雇用への意識について紹介する。本調査では、障害者雇用の方針における目的として採用活動を行う際に【現在最も重視する方針】と【今後、最も重視したい方針】を企業の人事担当者に尋ねた。
- 結果、現在及び今後においても、「法令順守として法定雇用率の達成」に重点を置く企業が半数以上であったが、**今後においては「自社の収益業務に貢献してもらいたい」と考える企業が25.3%にのぼり、4社に1社がこの方針に置く傾向がみられた。**
- 企業は、障害者の活躍を見越した採用にシフトしつつあることが伺える。

※選択肢は「法令順守の範囲内で雇用するため」、「自社の社会貢献活動で活躍してもらうため」、「自社やグループ会社のユーティリティ業務で貢献してもらうため」、「自社の収益業務に貢献してもらうため」の4つである。
(URL : <https://persol-diverse.co.jp/news/12039/>)

■ **【障害者の意識】**：【今現在】及び【今後】のはたらく上で重視したい価値観

(N=359)



- なお、再掲であるが、今回実施した障害者の就業への意識調査では、**現在及び今後において、「収入の向上」、「障害や体調への配慮を重視し、無理せずはたらし続けること」の両者が高い。**
- 一方で、「自己成長、キャリアアップ」や「仕事や就業を通じて、企業や顧客、社会へ貢献すること」が低く、**業務面での活躍より、待遇や就業環境を重視する傾向**がある。
- 以上から、企業の意識の変化に対して、障害者の意識は大きく変化していないことが伺える。

障害当事者の意識は一貫して、「収入面」及び「障害配慮・勤怠安定」を求めている。

「はじめに」で述べたように、「障害者雇用対策基本方針」の2023年の改正において、障害者の“雇用の質向上”が事業主の債務として明記された。この社会変化の流れを受け、パーソルダイバースでは2024年8月に企業の障害者雇用に対する意識の変化について調査を実施した。この調査結果では、企業は法定雇用率の達成のみならず、障害者の活躍を見越した採用へと意識が変化していることが読み取れる。

一方で、今回の障害者当人へのアンケート調査では、2020年実施の調査から意識の変化は見られず、一貫して「収入面」及び「障害への配慮、勤怠の安定」を求めていることが分かった。

障害者が就職・転職活動において求めていることや課題は、「自分の求める条件に合致する仕事」があるか。就職・転職においては企業理解が必須。

本調査において、就職・転職活動において感じる不安や悩み、課題で最も多かったものは「自分の希望や条件に合致する仕事があるか」で、上記のはたらく上で大事にしたい価値観を達成したい、という意味が反映された結果となっている。

この「希望する条件」には、給与面からテレワーク等のはたらきやすさ、柔軟さまで幅広いものが想定され、事実、当社が運営する障害者の転職・就職支援サービス「dodaチャレンジ」では、フル在宅勤務や時短勤務の求人等も増えてきている。

今後障害者雇用を推進するにあたっては、今後より、いかに“はたらき方の柔軟性”を担保しつつ、雇用を創出していくかが鍵になっていくものと思料される。

本件に関するお問い合わせ

調査・研究データの転載のご希望や、調査内容についてのお問い合わせは下記からお願いします。

pdi_research@persol.co.jp
(パーソルダイバーズ障害者雇用調査・研究室)